

熊本県鹿本郡鹿本町方言の 比喩語について

吉岡 泰夫

はじめに

1. 調査対象地：鹿本町は熊本市から北へ27kmの県北部に位置する。菊池川流域の田園地帯にある商工業と農業の町である。世帯数2567戸、人口8975人。その内の710戸が専業農家である。園芸農業が盛んで、花卉とメロンを町の特産とする。

肥筑方言圏のほぼ中央部にある鹿本町は、熊本北部方言域に属し、伝統的な方言語彙も比較的豊かである。熊本市方言を含む熊本北部方言は熊本方言の中核をなすもので、熊本県域の地域共通語として優勢であり、県下各地の特有方言にかぶさるように普及しつつある。このような県域を範囲とする地域共通語化が進行するとともに、都市部では若者層による方言の改新が中高年層にも浸透する状況にある。それは語彙や表現法の面に及ぼす影響が大きい。この現状を踏まえ、地域的特色がみられる方言の比喩語を尋ねるには、伝統的方言を色濃く残す地域・世代として鹿本町の老年層が適当と考えた。

話者宅がある今古閑は23戸70人の小集落で、ほとんどの家が吉岡・浦上のいずれかの家系に連なっている。教員・公務員などの勤め人が多く、専業農家は少ない。

2. 調査年月日時：1992年12月 2日 午後 4時～ 5時30分

3. 話者：吉岡憲子氏 昭和 6年10月13日生（61歳）

吉岡マサ氏 大正14年 7月 6日生（67歳）

4. 調査者・調査場所：吉岡泰夫・話者（吉岡憲子氏）宅の居間

5. 調査方法・調査時の様子：調査票に基づいて尋ねる方法をとった。話者の吉岡憲子氏は、鹿本町の生まれで同町に嫁ぎ、よそに住んだことがない生え抜きである。したがって、質問は主に吉岡憲子氏に向けて行い、回答してもらった。近所で長年親交のある吉岡マサ氏に同席をもとめ、相談・確認の相手をしてもらった。二人の回答はほとんど一致するが、一部補い合ったところもある。

I 《自然現象》

1. 日照り雨 キツネンヨメイリ（狐の嫁入り）

〈名〉 中・老年層 稀 古。手指を組んで菱形の隙間を作り、太陽にかざして見ると、日照り雨の時は、狐の嫁入り姿が見えるという言い伝えから。

2. 入道雲 ユーダチグモ（夕立雲）

〈名〉 中・老年層 盛 古。この雲がわいたら間もなく夕立がくるところから。

3. 旋風 チジマキ (塵巻)
〈名〉 中・老年層 稀 古。地面から塵を巻き上げていくところから。

ジャノノポリヨル (蛇が昇っている)
〈連語〉 中・老年層 稀 古。大蛇が空に向かって昇っていく様子に似る。

5. つらら マガンコ (馬鍬の子)
〈名〉 老年層 盛 古。馬鍬 (マガ) の刃か出ている様子と形が似ていて、しかも小さいところから。

6. 北斗七星 ヒシャクボシ (杓星) 〈名〉 老年層 稀 古。杓の形に並んだ星。

7. 昴 ホタルボシ (蛍星) 〈名〉 老年層 稀 古。蛍のように輝く星。

8. 流れ星 ヒノタマボシ (火魂星) 〈名〉 老年層 稀 古。火魂は人魂の意。

II 《動物》

11. ひきがえる カサワッコ (痘蛙)
〈名〉 少～老年層 盛 古。吹き出物をカサまたはカサッパチと言う。蛙はワッコ、ワクド、タンギャクと言う。吹き出物ができたような蛙という意。

12. 青大将 エグチナワ (家朽ち縄)
〈名〉 中・老年層 盛 古。家に住んでいる蛇であるから。蛇はマムシ以外はすべて「～クチナワ・～グチナワ」となり、朽ちた縄にたとえられる。マムシは口が平たい様子から「ヒラクチ」と言う。

13. とかけ トカギリ (とか切り)
〈名〉 老年層 稀 古。しっぽが切れるところから。

14. かまきり オガメ (拝め)
〈名〉 少～老年層 盛 古。手を合わせて拝むようなしぐさをするとところから。

15. みずすまし ジーカキムシ (字書き虫)

〈名〉 少～老年層 盛 古。字を書くように水面を走る虫。

17. せきれい イシタタキノタロジャ (石叩きの太郎者)

〈名〉 少～老年層 盛 古。尾で石を叩くようなしぐさをするとところから。

18. ふくろう コーゾドリ (幸蔵鳥)

〈名〉 中・老年層 盛 古。鳴き声が「コーゾ、コーゾ」と人を呼んでいるように聞こえる。その不気味さを「幸蔵、幸蔵、枯れ糞食うか」とからかわれているととらえる。

Ⅲ 《植物》

20. とうもろこし トーキビ (唐黍)

〈名〉 少～老年層 盛。外来の黍ととらえる。

21. いんげん豆 アクシャマメ (悪性豆)

〈名〉 中・老年層 盛。アクシャウツ〈動〉は、手に負えず持て余す、ほとんど困り果てる、という意。アクシャウツほどよく実がなるところから。

22. そら豆 ナツマメ (夏豆)

〈名〉 少～老年層 盛。夏に出来る豆。

23. 木くらげ ミミナバ (耳茸)

〈名〉 少～老年層 盛。茸はすべて「～ナバ」となる。耳の形をした茸の意。

25. どくだみ キツネンカライモ (狐の唐芋)

〈名〉 中・老年層 盛。カライモは薩摩芋のことで、葉の形が似ている。

29. 春蘭 ジートババ (爺と婆)

〈名〉 老年層 稀。丁髷の形の雄花と丸髷の形の雌花があるところから。

31. ねむの木 ウララ (麗) ウスランチャ (薄らの茶)

〈名〉 老年層 稀。ウララは麗かに眠る様子から。ウスランチャは薄らに眠る茶の木の意。

IV 《性向》

32. 熱しやすく冷めやすい人 アキヤスバスキヤス (飽き易の好き易)
 <名> 中・老年層 盛。あきっぱいのにすぐ好きになって熱中する人。
33. あわてん坊 オロタエヒョーグワン・オロタエホーガン (うろたえ判官)
 <名> 中・老年層 盛。
34. 動作の鈍い人 グズロ (愚図郎)
 <名> 少～老年層 盛。ぐずぐずしている人。
37. おしゃべり アゴタタキ (顎たたき)
 <名> 中・老年層 盛。アゴは口先、タタキはちゃらちゃら動かす人。
38. 冗談言い ヒョーゲポーズ (ふざけ坊主)・ヒョーキンタン (馴軽丹)
 <名> 中・老年層 盛。
39. 口先だけの人 アゴバカリ (顎ばかり)
 <名> 中・老年層 盛。アゴはしゃべる口先、バカリはそれのみの意。
41. のらりくらし煮えきらない人 グズノヘゲン (愚図のへげん)
 <名> 中・老年層 盛。グズはぐずぐずする意。ヘゲンは埒があかないの意。
42. おこりっぽい人 キンピラ
 <名> 中・老年層 盛。キンピラ牛蒡のようにピリピリしている人。
44. 泣き虫 チャンメラ
 <名> 少～老年層 盛。メラメラと泣き崩れる様子から。車などが衝突して、グニャグニャに壊れたような状況を「チャンメラになった」と言う。
45. おてんば娘 テンバンツウ (天馬のやつ)
 <名> 少～老年層 盛。天馬のように元気がいい様子から。
46. 腕白坊主 ニガシロ (苦四郎)・ニガポーズ (苦坊主)
 <名> 少～老年層 盛。苦々しいことをする男の子。

47. 出しゃばり シャマギリ
 <名> 中・老年層 盛。 シャマギル<動>はしゃしゃり出て邪魔をすること。
49. 家にもって外出しない人 ハンドガメ (飯銅瓶)
 <名> 中・老年層 盛。 味噌などを蓄えたり、水をくみ入れて台所においたりする飯銅瓶は重くて、めったに外に出すことがないところから。
50. 小心者 シェシェンノキンタマ (シェシエリの金玉)
 <名> 中・老年層 盛 下。 シェシエリは体長約2ミリのブヨのこと。その辜丸はさらに極小と想像されるところから。
51. 内弁慶 ガクヤベンケイ (楽屋弁慶)
 <名> 老年層 稀。 舞台裏ではいばっている人。
53. 妻に対して頭の上がない男 シリシカレ (尻敷かれ)
 <名> 中・老年層 盛。 妻の尻に敷かれている男。
54. けち シワンツ
 <名> 老年層 稀。
55. 欲張り ヨクタロー (欲太郎)・ヨクジン (欲仁)
 <名> 中・老年層 盛。 ジン (仁) は人称代名詞の転用。

V 《食生活》

56. 大食漢 ウーメシクイ (大飯食い) <名> 中・老年層 盛。
ダギャンクーゴツクー (駄飼い桶が食う如く食う) <連語> 老年層 稀。
58. 砂糖味が薄い サトヤントエー (砂糖屋が遠い) <連語> 中・老年層。
59. 塩味が薄い シオケンタラン (塩気が足りない) <連語> 中・老年層。
60. 大酒飲み イッシュョーグチ (一升口) <名> 中・老年層 盛。

61. 酒に酔ってくだをまく ウダゴツタタク (うだ言たたく) <連語> 中・老年層。

62. 酒に酔って赤くなった顔 ウレタツラ (熟れた面) <名> 老年層 稀。

VI 《動作・様態》

63. 恥ずかしくて顔が赤くなる ヒノヒッチタ (火がひっ付いた) <連語> 老年層。

64. どしゃ降り ヤブルルゴツフル (破れる如く降る) <連語> 老年層。

65. ずぶ濡れの様子 カワカリアガッタゴタル (川から上がった如くある)
<連語> 中・老年層。

66. 服装がだらしないさま ズンダレ <名> 中・老年層 盛。

68. 厚化粧をしている人 ゴボンシライ (牛蒡の白和え) <名> 中・老年層 稀。

69. 背丈の高い人 ニュードーボーズ (入道坊主) <名> 老年層。

70. 出びたい シャーズツ (小槌)・デブチン (出額) <名> 中・老年層。

72. 目を丸くする オンノメンゴツナル (鬼の目の如くなる) <連語> 老年層 稀。

73. 口をとがらす ドジョーグチ (どじょう口) <名> 中・老年層。

74. 焦げ臭い キンネクサカ (布きれ焦げ臭い)・スボルクシャー (熏る臭い)
<形> 老年層。

75. 遠廻り ナベンツルマワリ (鍋の鉉廻り) <名> 老年層。鍋の把手のところ
を廻るように遠廻りすること。

76. 末っ子 オトジロ <名> 老年層。

77. 一生懸命頑張る ガマダス (我慢出す) <動> 中・老年層 盛。

(よしおかやすお 熊本短期大学)